

令和元年7月26日

浦添市議会議長 殿

文教委員会
委員長 仲里 邦彦

文教委員会視察報告書

令和元年7月8日から令和元年7月10日まで、委員会視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

- | | |
|---------|---|
| 1 視察期間 | 令和元年7月8日（月）～令和元年7月10日（水） |
| 2 視察場所 | 福岡県大牟田市、福岡県筑紫野市 |
| 3 視察項目 | 大牟田市ESDコンソーシアムについて
筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会について
筑紫野市・小郡・基山清掃施設組合見学（クリーンヒル宝満） |
| 4 視察参加者 | 仲里 邦彦（委員長） 稲嶺 伸作（副委員長） 又吉 正信
大城 翼 銘苅 良二 當間 清春 伊礼 悠記 |
| 5 調査内容 | 別紙のとおり |

視察日	令和元年 7 月 9 日 (火)
視察先	福岡県大牟田市 人口 114,496 人 (平成31年 4 月現在) 市面積 81.45 km ² 議員定数 24 人
視察市の概要	
<p>かつては三池炭鉱の石炭資源を背景とした石炭化学工業で栄え、1959年には最大人口208,887人を誇ったが、エネルギー革命などにより石炭化学工業は衰退。 まちづくり総合プランにおいて目指す都市像「人が育ち、人がにぎわい、人を大切にする ほっとシティおおむた」を定め、実現に向けて取り組んでいる。</p>	
調査項目	
大牟田 E S D コンソーシアムについて	
調査理由	
<p>浦添市において、E S D (持続可能な開発のための教育) を市内小中学校で積極的に推進していく必要があると考えるが、学校長始め教職員の E S D に対する理解、年間教育指導スケジュールの調整、現場の負担感など払拭すべき課題があった。その点を先駆的に取り組む大牟田市の視察を通じて学ぶことを目的とした。</p>	
調査内容	
<p>(1) 大牟田市 E S D コンソーシアムの概要について (2) E S D の取り組みについて (大牟田市のユネスコスクール等) (3) 組織の編成 (職員、専門職員の配置数等) について (4) 貴市教育委員会や福岡教育大学、福岡県教育委員会、参画企業及び諸団体等の連携や協力方法について (5) 大牟田市 E S D コンソーシアム事業の成果や課題について (6) 教育現場 (学校長や教員) においては学校経営や通常の指導計画もあり、時間的な制約等がある中、新たに E S D を授業に組み入れることは教育現場の負担になることも考えられるが、どのように教育現場の理解を得たか</p>	
考察	
別紙 2 参照	

視察期間／2019年7月8日～7月10日

参加者／委員長・仲里邦彦委員 副委員長・稲嶺伸作委員

又吉正信委員、大城翼委員、銘苺良二委員、當間清春委員、伊礼悠記委員

◎大牟田市ESDコンソーシアムについて

【全体の考察】

●今後、浦添市において、ESD（持続可能な開発のための教育）を市内小中学校で積極的に推進していく必要があると考えるが、学校長始め教職員のESDに対する理解、年間教育指導スケジュールの調整、現場の負担感など払拭すべき課題があった。その点を先駆的に取り組む大牟田市の視察を通じて学ぶことを目的とした。

●市教育委員会ご担当者から取り組み内容についてご説明を受けた中で、来年度から文部科学省の新学習指導要領にESDが明記されることがわかり、浦添市のESD実施に対して追い風となることが確認できた。

●少なからず地域に目を向け総合学習で行っていることを編み直すことで各学校また学年に応じたESDカリキュラムを主体的に構築することが求められる。例えば、浦添市も港川小学校で既に取り組んでいるカーミーゼの海洋生物の生態系や海洋ゴミの問題などをESDに編成し直すことは“think globally, act locally”の視点を身に付けさせることで有意義なものとなる。

●港川小学校以外の小中学校においても各々に最適なテーマがあるであろうし、既に総合学習で取り組んでいるであろう。松本市長の考えとも合致しているESDを大牟田市同様に校長会・教頭会で一堂に会して共通の認識と目的を持って推進し、ユネスコスクールの一斉登録まで目指すことを市議会で後押ししていきたい。

●予算に関しては、複数の事業を活用しながら不足分は市の浄財を使用している大牟田市の本気度を受け取った。浦添市も必要であれば大牟田市を参考にさせて頂きながら予算確保を検討する必要がある。

【各委員による考察は以下のとおり】

●ESD（持続可能な開発のための教育）を推進する大牟田はアクティブラーニングを念頭に教職員が多様な研修を実施。いわゆるESDを子供から大人に至るまで地球規模で考え、地域で行動するもので、本市においては、地域環境とカーミーゼの学習や国際交流等の実施が散発的に見られるが系統的に実施されてない。また、地域におけるESD活動が自分の問題としてとらえ行動できる人材の育成が必要である。ESD活動を市民へ浸透させることは、最終的にはSDGsの達成に貢献できるので、ESD推進は社会、世界とかわるることができる人生を送る方策としては人格形成に役立つ。

●持続的社會に求められる体系的整備が急務と考えられる。教育分野において、様々な事業をESD化することによって持続的社會が実現する。

●三池炭鉱で栄えた町で、将来の人口減少に対して危機感を持って、ESD活動を通して意識改革に取り組んでいる。浦添市も将来のため、取り組みも必要あり。

●大牟田市のユネスコスクール・ESDの活動は、それぞれの学校の特色を生かし地域に根ざしたものであった。学校だけでなく「きずなプロジェクト」のボランティアも含めSDGsの17の国際目標と合致する取り組みを、地域全体であらゆる形で取り組んでいる状況にあったが、それは特別に新たに設けたことではなく、普段の活動から見出していくという、担当指導主事の「編み直し」という表現が印象的だった。教員の負担は大幅に増えている様子から、それらに照らし合わせても、浦添市においても考え方を変えれば実現可能ではないかと考える。市を挙げて取り組んでいる、というところが大変重要であると感じた。現在、浦添市においては前田小学校がユネスコスクールに申請中であるが、市内には77の指定文化財があり、また世界遺産を目指す浦添城跡、日本遺産に認定された「琉球料理」「泡盛」「芸能」、前田棒、地場産業の桑、漆芸専門の浦添美術館、レインボー宣言、認知症サポーターの取り組み、うらそえ織など多くの資源がある。これらを生かし、ESDの推進拠点としてのユネスコスクールの取り組みを推進することができるのではないだろうか。導入や推進していく上では市のイニシアチブとコンソーシアムの構築なども課題である。財源については、ユネスコ活動費補助金としてSDGs達成の担い手育成推進事業の全額補助を受けているが、取り組みは多岐にわたり視察の中では予算規模に関してその場で返答を得られなかったため、引き続き財源確保についても研究していく必要がある。

●学校現場について説明を聞く前は先生方の負担増を懸念したが、話を聞くうちに負担増にならないと感じた。学校現場での授業日数の確保について、授業の中で取り組んでいるので影響は無いとの事。市長が先頭に立ち、行政職員、学校、地域が連携して素晴らしい事業が展開されており、市長、教育長のやる気を感じた。浦添市でも、市長、教育長に本気度があれば出来ると思う。

●大牟田市では地域資源・福祉・世界遺産・国際理解・環境・食育など多岐に渡るテーマで世界中の学校と交流し情報や体験を分かち合っている。本市浦添市においても浦添城跡などの文化資源、国際センターJICA沖縄での国際交流、西海岸カーミーの海洋保全、福祉施策など多くの地域資源を有することから、本市で取り組んでいる既存の各分野に、ユネスコスクールやESDのような体制構築のあみ掛けができれば、地域活性はもとより国際的視野を持つグローバル人材の育成にもつながると期待する。是非、学校教育課程に位置付けて取り組んでいただきたい。



視察日	令和元年7月9日(火)
視察先	福岡県筑紫野市 人口 103,897人 (令和元年6月現在) 市面積 87.73km ² 議員定数 22人
視察市の概要	
筑紫野市は福岡県の南西部に位置し、飯塚市、太宰府市、大野城市、那珂川市、小郡市、筑前町、佐賀県基山町などと接している。九州自動車道・国道3号やJR鹿児島本線・西鉄天神大牟田線などの縦の幹線が平坦部を北西から南東にかけて走り、さらに、国道200号やJR筑豊本線・西鉄太宰府線などが本市において分岐していることから、北部九州における交通の要衝として重要な地位を占めている。	
調査項目	
筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会について 筑紫野市・小郡・基山清掃施設(クリーンヒル宝満)見学	
調査理由	
恒常的な課題となっているごみ減量化は浦添市においても例外ではない。市民・事業者・行政が一体となり市民参加型ごみ減量に向けての取り組みを行っている筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会の活動を視察し参考とすることを目的とした。 浦添市では新クリーンセンター建設を予定しており、その参考とするため筑紫野市・小郡・基山清掃施設(クリーンヒル宝満)見学を行った。	
調査内容	
<p>(1) 筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会の概要について</p> <p>① 設立にいたる経緯</p> <p>② 協議会の取り組みや活動内容</p> <p>③ 成果や課題</p> <p>(2) 粗大ごみについて</p> <p>浦添市では市民一人当たりの排出量減少傾向にあるが、粗大ごみについては年々増加している。筑紫野市の粗大ごみの近年の排出量について、また、粗大ごみの減量の有効な施策について</p> <p>(3) ごみ処理手数料(有料袋)について</p> <p>有料ごみの減量対策に有効な施策だと勘案するが、処理費用に掛かる市民負担分をどのくらい求めるのか基準等について(浦添市においては近隣市町村との均衡)</p> <p>(4) リサイクルボックスについて</p> <p>リサイクルボックス・電池回収ボックスの公民館等への設置における管理上の課題について(色んなごみを入れられる。管理費がかかる等) また、ボックスの中の回収方法について</p> <p>(5) 資源循環型のごみ処理について</p> <p>筑紫野市・小郡・基山清掃施設組合(クリーンヒル宝満)独自、または特徴ある資源循環型のごみ処理技術や施設、設備等について</p>	
考察	
別紙4参照	

別紙4

文教委員会視察における考察

視察期間／2019年7月8日～7月10日

参加者／委員長・仲里邦彦委員 副委員長・稲嶺伸作委員

又吉正信委員、大城翼委員、銘莉良二委員、當間清春委員、伊礼悠記委員

◎筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会について

【全体の考察】

●筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会の概要について、市民団体・事業所・官公庁等71団体が加入する推進連絡協議会が10年以上開催されているということが、ごみ減量の取り組みを推進・強化するために重要な役割を果たしていた。

●協議会の取り組みや活動内容として、資源回収奨励金（2246万円）ごみ集団「ごみ減量・リサイクル協力店」の認定、回覧板での周知、福岡県あげてのマイバックの日の設定等が市民の意識を変えるために行われている。

●資源化率23%ということだが浦添市の状況も把握する必要がある。燃えるゴミの50%以上がリサイクルが可能な紙・布であることを、市民に目に見える形で知らせていくことは3つのRの取り組みを推進するものであり、どの取り組みも浦添市においても必要である上、実現可能な取り組みであると感じた。

●浦添市では8年後の新クリーンセンター供用開始に向けて、現在、一般廃棄物処理実施計画とクリーンセンター整備基本計画が審議されており、その点においても参考になるものではないかと考える。最終処分の処理が不要な「高温ガス化直接熔融炉」については浦添市でも取り入れるべきではないだろうか。リースで委託契約するとコスト縮減になるというアドバイスも頂いた。事業費と併せて検討できるのではないかと考える。

【各委員による考察は以下のとおり】

●「クリーンヒル宝満」を視察して、本市が進める新クリーンセンター建設に向けて提案できる件を考える。まず、①炉形式が高温ガス化直接熔融炉を採用し、本市で事故のあった②飛灰処理装置はダイオキシン分解処理で安全性がある（飛灰しない）。③余熱の有効利用（施設内の電力を賄い余剰電力は売電）。本市は事務委託形式だが、筑紫野市は組合方式で異なる。市民のごみ減量意識として「一人一日当たり100グラムごみ減量」運動の展開、リサイクルボックス（乾電池回収）を地域公民館での回収を参考とする。視察でのまとめとして、ごみの問題の市民意識の向上は勿論のこと、本市の新クリーンセンター建設に向けての参考点は①炉形式②飛灰処理装置③余熱の有効活用が挙げられる。

●クリーンセンター内において、残処理等の資源化等、財政的裏付けが求められると考えられる。職員等（委託業者）が高い知識力によって業務を行い、ダイオキシン濃度も基準値を下回る運営で公害対策をしっかりと取り組む必要あり。

●資源ごみ集団回収奨励金について、「新聞、雑誌、段ボール、古布」を回収する町内会、社会教育団体（子供会など）に1kgにつき8円で奨励金を交付している。参考にしてほしい。次に、ごみ減量推進協議会の取り組みでごみ総排出量が減少傾向である。本市も取り組んではどうか。

●筑紫野市のごみ収集は、午後10時～午前4時（交通量の少ない時間帯）に行われており、ごみ分別が14種類とのことで徹底されていると感じた。ごみゼロ運動について、地域住民により年2回市内全域でごみ拾いを行い、10,000人～15,000人の参加者がいる。クリーンヒル宝満では、一般家庭ごみも10キロ150円で持ち込み可能である。

●筑紫野市ではごみ減量策として、ごみ減量推進連絡協議会の設立、資源ごみ集団回収奨励金、ごみ処理手数料（有料袋）、リサイクルボックス、啓発活動など多くの先進事例に取り組んでいる。その中でもごみ減量推進連絡協議会については、市民・事業者・行政が協働でごみ減量に関する啓発を行う団体（71団体）として構成し、協議だけでなく年2回の啓発チラシ作成やフリーマーケット・環境フェアの開催等を行っており、このような市民・事業者・行政が一体となった市民参画型の協議会での取り組みはごみ減量に向けての市民意識、周知啓発としてとても有効な活動だと思う。その他にエコバック・水切りネットの配布、リサイクル協力店・エコ飲食店認定制度などの取り組みも行っている。是非、浦添市でもこのような取り組みを推進していきたい。

